

Handwritten Japanese characters on a rectangular paper label: 190 4

190
4



於
190
4

本伊

大川

東六

絲櫻春蝶奇縁卷之四

東都 曲亭馬琴 編述

第五段

矢野平通と白双了伏と
小糸女が才管領子辞ふ

天文十七年九月上旬、神原矢野平の鎌倉へたら歸りて五十四塚東六郎が
言受けしり、越を管領憲政へ申えおげ。宿所へ退りて一子物五郎が
小草がひを物ごりし。此度ゆりあり、誓縁を結びたるものあらん。
當座は聘物とて、胡蝶の小鞆を贈りし。を告げし。その日、小草は
書したる扇をとて、物ごりし。とて、狭五郎のれとて、その手蹟を
。五十四塚の武藝勇敢の豫を、つくとて、そのあつたれやま。
大人のいさろ子、稀ひたるものあら、推辞せたるものあら、とて、彼人の

未著をもちつて秋も暮れ冬も半ありよけれど。その風の音づら
 む。憲政のいふと。頻りに運泰を謹めい。夫平海とく。迷惑。疾行
 ある私卒を。猛り伊勢へ遣りて。五十四塚が消息を問う。その日の十月の
 上流に走らうといふ。某前月廿六日。女濃津到着。東六の隣人
 等。彼人のつとをたづぬひ。五十四塚の九月廿六日。令弱を携て津の
 宿所を出ひぬ。あつれども速を取ると海陸共定らる。或は東海を
 と。水行をせう。あつれども。水行をせう。あつれども。水行をせう。
 何れに彼処を。發行の。一定よ。と。告知よ。夫平。疑ひ。ひ
 る。已。君。消息を。安え。憲政。勃然。と。気色。變。件。の
 東六。九月。中流。既。女濃。の。津。を。發行。の。り。の。鎌倉。泰。ら。る。は。る。
 必情由ゆへ。汝が。執達。の。過。失。誰。が。あ。る。宿所。退。れ。し。

侍と慎で下知を候。年暮れ春ならるも。彼りのゆり。泰らる。緋。は。は。
 う。あら。退。と。敦。圍。の。夫。平。の。ひ。つ。づ。け。辞。ら。る。あ。つ。畏。し。と。前。
 退。つ。用。執。と。居。たり。る。あ。つ。一。夜。五。郎。父。の。閉。居。を。い。う。憂。ひ。
 小。ひ。つ。ち。の。び。く。は。鶴。岡。の。八。幡。宮。と。未。請。し。毎。宵。上。榎。嶋。の。辨。天。堂。
 通夜を。つ。が。の。泰。山。五。十四。塚。が。東。着。を。い。う。親。の。閉。居。を。免。し。あ。つ。
 寢食を。忘。る。や。丹。精。を。抽。く。祈。る。と。い。ふ。も。あ。つ。人。の。竟。ま。ま。年。の。僅。き。あ。つ。
 たり。あ。つ。夫。平。の。つ。つ。と。あ。つ。東。六。既。九。月。の。あ。つ。は。起。行。を。ら。ん。あ。つ。と。
 百日の。音。耗。る。や。必。途。は。抑。留。せ。ら。る。と。い。ふ。賊。難。の。あ。つ。あ。つ。
 傾。り。の。あ。つ。あ。つ。生。死。存。亡。定。ら。る。と。い。ふ。あ。つ。年。を。暮。ら。し。主。君。の
 ひん。怒。り。の。下。へ。は。ま。り。身。の。罪。科。の。脱。走。を。い。ふ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。
 追。放。と。四。境。の。呻。吟。と。の。あ。つ。死。と。も。眼。を。閉。ぐ。と。い。ふ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。



丁そのれとゆつとて。間毎の亮隔を閑とららつ。便室の
 ういおれてる金。そのふ定一封の送書と前よかた。今
 肚を切らるとか。けくて。漬る鮮血と共。俯またたけ
 い。吃笑断ぎらり。狹五郎の目を見て。駭然
 まり。蒐て。右のふの刃を握合。父の養子を楚と
 とい。た子と膝より入。是て。起ら。声を
 あり。数回喚駐。流る涙を揮拂。の喃。が大人
 五十四家の。遅糸を。む。ひ。た。ごと
 思食。と。自。殺。志。お。ひ。放。つ。ふ。胸。を。お。ひ。て。
 此。ころ。の。乱。ま。る。放。つ。や。お。ひ。決。ま。る。ご。と。て。一。言。狹
 五郎。又。如此。と。告。る。ね。ま。の。び。く。よ。赤。を。運。び。神。は。仏。は。

願言をわくも。是。は。大人。の。用。居。を。と。申。免
 されて。入。る。む。な。む。の。羊。を。殺。さ。し。ん。
 と。り。誠。の。千。早。振。神。と。仏。の。利益。を。け。し。
 たら。ば。も。榎。嶋。より。賽。ふ。七。里。の。濱。蟹
 の。子。共。か。ひ。死。揚。る。流。木。の。そ。が。中。は。破
 取。の。板。子。小。寫。せ。一。文字。の。ひ。ね。る。九。月。十。七。日。
 遠。江。灘。中。て。五。十。四。家。親。子。が。入。水。の。死。
 ち。の。れ。名。を。如。此。に。留。め。ら。れ。わ。る。
 證據。は。彼。人。の。遅。糸。乃。疑。念。を
 春。を。も。や。ら。ば。氷。の。ごと。く。解。ら。る。
 早。す。く。自。殺。志。の。へ。る。不。禍。神。の。實。縁。と。



神原五郎平
 春をよらば氷のごとく解らる

親を非命に喪へし。只狹五郎が身ひらの勤た小勤たを累る致。
政扁の術のうとも。既深瘡を負ひる存命かまうやうとも。
小言ふ子うとも。狹五郎致とも。物のあはれ。めりけり。とうた口説声を
限る。喚甦る。恩愛の絆。毎常の風も致されん。矢野の恩愛は
息吹く。眼を睜す。や狹五郎。何うの。五十四塚親子の九月十七日の
入水せし。今般の名字を写した。板子に拾ひて。その何処に
めり。うんせ。うんせ。うんせ。息のあはれ。父がぼろ。一件の板子をば。
又教回息を吻た。宴の命を頼む。ぬりのは。齡四十のうを
踰と。勇敢武術は馬。五十四塚。盗難のありとも。終るん
と。まごころ。病。頓。死。べ。と。うん。うん。うん。うん。うん。うん。うん。うん。
疑ひ。物のあはれ。恨。主君。うん。うん。うん。うん。うん。うん。うん。うん。
子のうん。係。せん。と。階。わ。必死を極め。齡五十のまう。たる。
矢野。先。ら。東六。うん。うん。うん。うん。うん。うん。うん。うん。
小草。うん。うん。うん。うん。うん。うん。うん。うん。
縁。を。締。未。通。女。の。誓。縁。うん。うん。うん。うん。うん。うん。うん。うん。
汝。妻。と。思。ひ。と。東六。うん。うん。うん。うん。うん。うん。うん。うん。
子のうん。親のうん。を。思。ひ。志。を。遂。げ。五十四塚。親子。今。般。
のうん。うん。うん。うん。うん。うん。うん。うん。
その母。離別。うん。うん。うん。うん。うん。うん。うん。うん。
是。を。ま。つ。その名。を。止。以。子。と。な。れ。と。うん。うん。うん。うん。
の妹。あり。その往。方。を。あ。う。の。と。彼。室。うん。うん。うん。うん。
あり。妻。よ。東六。親。族。の。誠。を。償。て。一。女。よ。お。ま。ひ。続。け。ぞ。う。が

親を非命に喪へし。只狹五郎が身ひらの勤た小勤たを累る致。
政扁の術のうとも。既深瘡を負ひる存命かまうやうとも。
小言ふ子うとも。狹五郎致とも。物のあはれ。めりけり。とうた口説声を
限る。喚甦る。恩愛の絆。毎常の風も致されん。矢野の恩愛は
息吹く。眼を睜す。や狹五郎。何うの。五十四塚親子の九月十七日の
入水せし。今般の名字を写した。板子に拾ひて。その何処に
めり。うんせ。うんせ。うんせ。息のあはれ。父がぼろ。一件の板子をば。
又教回息を吻た。宴の命を頼む。ぬりのは。齡四十のうを
踰と。勇敢武術は馬。五十四塚。盗難のありとも。終るん
と。まごころ。病。頓。死。べ。と。うん。うん。うん。うん。うん。うん。うん。うん。
疑ひ。物のあはれ。恨。主君。うん。うん。うん。うん。うん。うん。うん。うん。
子のうん。係。せん。と。階。わ。必死を極め。齡五十のまう。たる。
矢野。先。ら。東六。うん。うん。うん。うん。うん。うん。うん。うん。
小草。うん。うん。うん。うん。うん。うん。うん。うん。
縁。を。締。未。通。女。の。誓。縁。うん。うん。うん。うん。うん。うん。うん。うん。
汝。妻。と。思。ひ。と。東六。うん。うん。うん。うん。うん。うん。うん。うん。
子のうん。親のうん。を。思。ひ。志。を。遂。げ。五十四塚。親子。今。般。
のうん。うん。うん。うん。うん。うん。うん。うん。
その母。離別。うん。うん。うん。うん。うん。うん。うん。うん。
是。を。ま。つ。その名。を。止。以。子。と。な。れ。と。うん。うん。うん。うん。
の妹。あり。その往。方。を。あ。う。の。と。彼。室。うん。うん。うん。うん。
あり。妻。よ。東六。親。族。の。誠。を。償。て。一。女。よ。お。ま。ひ。続。け。ぞ。う。が

奴隸よ板子をとめて父の送書は懐うき。遠く君所よ未だ長尾
 長尾景春よ就く。絆解よ新まきく憲政はて致うたぬ東六
 郎が入水のゆいと惜びたりのぞじや。やまが夫所平をいぞ罪あふた
 早まきく自殺のせり。是悲よ及ぶ所。只恨らく先君あつて
 かりけひい。一文字の陣羽織竟よるかや。底の水骨とあり
 ぬべ。彼東六と秋五郎の正しは再後兄弟あらむや。加梅彼が女
 近曾婚縁を断せり。予も粗らぬを安王。宜夫所平とも小菅
 提を吊ひゆるさるべし。前約違ふ東六未か。野の坊料を
 亀谷ある。壽福寺へ寄附せられし。秋五郎の君恩。忽た身溢れ
 感謝よは堪む涙を流し。極く宿所へ退出り。父が亡體を送葬
 して斬腹の報は焦毀るす。看経林各よのとのあ。喪よのりてど
 居たりける。禮よ春ならる。天文十八年三月下旬山内管領憲政朝
 臣御嶽藏源氏山のほとりまき。求食雉よは放鷹鳥を近習の士
 おく大を牽し。列卒を整へ朝まき。山内の誰をかくの時。上野
 井の城は居住し。扇谷の管領は武藏あり。やと永祿天文の年間
 是利晴氏をさく。昔西谷に在り。この以徳意は。熊倉ありし
 あひよけれど。さる獲あつたり。名越御後富のうき。伏分各天狗堂を
 うら越え。延明寺のわあ。辻町を過りあ。程よまのの西は玉舟の道
 芝の露のまき。乾ぐん泥土は行騰ひじて裳あり。ありし名越村の
 辻町の盡処まき。草鞋をりえ。ととえ。前二方を樹籬小締め
 たる。道次の白屋よ。ととら。女の声。紫琴を拵。羅綾の
 むらぐら。引ざらん。七尺の屏風も。越る。越ざらん。ととら。

たる。面叙へんえね。佛の煙よあ。鳥の啼音も。やとあ。

峯の猿猴もくま未べく。涼山の鹿もくま未べく。彼俊彦が女兒再ひらまへ
生え多ん誰がまありや。と主従のかりげ耳を例えり。憲政朝臣の白屋の
門邊は立在左右をうんえり。且くは小休ひき。夏を洗んと男の湯を
乞ふ。と仰されば近所の武士うけあがり。片折戸をうち敲れ誰りあるら
ず。山内の管領家。放蕩りよあひて。目今ををるるめめは泥土り
塗まぬへ。足を洗んと仰らるる。盥をうけ。はだ清き。湯を進らばは
鳴ればあらあ。琴の音はて。阿と蕪も頓まらぬ。且して髪は内より
折戸をうぬをるれば。二八可の少女あり。めめて装ひ飾らねど。素顔白く
く。夏の土峯の如く。眉根翠より。春の孖少は似たり。顔は二月の櫻
花を欺て。晴は風の情。月の意をなめ。眼は秋夜の二星に似たり。常は
兩の恨雲の然を含む。玉貌妖嬈たり。芳容花如花。花たり。湯を進らす
わとらう。くま未べく。右もよ會た。白因扇は月も宿らぬ。といと愛たく
書たるを。蹴たつ。う翳し。管領はふせもあらせ。喜ひ言せり
あるまじき。憲政近くまうりて。その因扇とあ。とまうりて。沈吟
のゆる文明十八年。七月中院。精谷の館まう。陣没した。大夫判官。大田
持資がまう。まう。比一山里は。猿ら。道去。白屋はま。ま
叢を借らん。とひひ。内より女子出迎。七重八重花の咲も。山吹の
みのひら。だ。あ。と古歌を吟。は。竟は。叢。け
拵資そのらるを。不與。宿。或人。物。め
秋のら。知。武備餘あり。と。文備。名。の
今ま。月。を。と。文道。は。悔。と
これより。詩歌。を。和漢の書籍。は。竟は。文武の良。と

いられしとて今らよ。どひあはす。才女が謎。月も宿らどと字をい。られ大か。に
猜たり。傳。城陸奥。平泰盛が。金澤頭時が。妻より。乳名を。千代
能と。り。後。比丘尼。より。無着と号し。又。如大と。法名。せり。佛光。禪師。よ
参禪。し。投機。の歌。を詠。た。し。ける。その。歌。より。の。う。が。戴。く。桶。の。底。ゆ。け
水。な。ら。ね。ば。月。も。宿。ら。ど。の。歌。を。り。その。意。を。量。る。べ。し。れ。今。ら。湯。を
乞。ども。盥。の。輪。函。底。ぬ。り。湯。を。り。ゆ。り。る。を。無。着。が。投。機。の。歌。よ
比。て。月。も。宿。ら。ど。と。字。を。い。漂。致。と。い。ひ。才智。と。い。ひ。風。流。少。女。子。か。ひ。ひ。き。を。障
の。宿。は。誰。裁。し。と。あ。る。花。を。あ。が。ん。と。い。ひ。遊。仙。の。巖。鏡。を。ら。を。面。て。唐。朝。の
張。文。成。よ。り。と。い。ひ。と。ら。の。り。び。宣。一。の。少。女。の。う。恥。志。ろ。と。い。ひ。果。敢。と
あ。る。意。も。ゆ。せ。と。後。者。亦。い。此。彼。の。秀才。頓。智。の。感。佩。し。耳。わ。ら。た。あ。る
か。持。せ。り。憲。改。片。類。は。笑。を。會。さ。し。着。て。少。女。は。對。ひ。これ。の。才。也。か
能。る。の。ゆ。え。ゆ。は。定。る。夫。あ。り。日。あ。ら。ど。藍。迎。と。し。ほ。り。迎。く。召
使。ん。ど。抑。親。の。何。れ。の。ぞ。と。宣。入。声。ゆ。え。と。や。齡。六。十。の。あ。ま。れ。る。老。女。遠
く。輿。よ。と。と。と。と。少。女。が。傍。に。流。れ。ゆ。これ。も。也。免。を。蒙。り。て。面。し。と
殿。は。京。人。婆。い。の。十。年。あ。ま。り。寡。ら。し。の。と。ら。れ。る。名。を。背。棋。と
ゆ。れ。ゆ。れ。と。二。歩。も。う。ん。禁。は。困。り。つ。詰。ぬ。世。帯。も。捨。う。と。秋。の。女。思。か
久。後。の。月。も。花。も。楓。替。ま。れ。ゆ。一。挺。の。あ。ゆ。は。揚。る。花。箱。の。底
を。揮。ひ。く。絲。竹。の。技。の。さ。ら。物。の。本。と。好。む。ま。り。詰。ぬ。と。い。ひ。ゆ。れ。と
背。せ。立。印。は。菟。を。纏。た。る。と。ら。の。もの。わ。ら。ね。が。この。正。妻。彼。首。の。傍。妻。と
縁。を。暮。め。媒。妁。を。と。ら。た。る。敵。身。限。と。多。り。れ。ど。う。た。が。う。の。もの。は
ふ。れ。と。と。ら。て。い。ま。の。親。の。欲。擇。む。の。ま。る。管。領。に。た。れ。る。女。兒。を
進。ら。し。親。も。君。所。へ。り。込。む。と。ら。と。よ。ら。ん。背。棋。利。方。の。女

源朝野史卷之四

一

御説の趣いづる推辞さうとせん女児が年十七まゝ。名を小糸と
 作り一足靴の立身の香車挂馬も及びぬ僥倖金銀もいふとつたゆゑ
 花車角行るをも威徳高た殿の傍妻よあるとたの女児のさるから
 弄へ給事よ異あらざ小糸も言受さうさびや。歩歩歩歩ま
 うら笑へ憲政もうら笑ひ才圃たる小糸とやらんか親がひありさ口の
 ありさよ女児だ進らさる。絆さる女がまよ仕して老樂よさう
 さるん竊よ近屋よ分付て遠うらざ迎とらとべ。必外よ便とあど可
 小糸えたらさる。股よ挿しあひたる。獵箭一條ぬた山背棋られ
 をとんさうか夫よあひとらさる。朱をり憲政とあうたま。ひひつる
 一点違ぬ誓言の獵箭あくむらさる。まの圃の昔のまをのまよらる。
 あらやあらざる。さるからりあつ。小糸のうらと推りたる。子杖釋り扱と伴の
 獵箭を背棋よ通与さる。折戸をぬかへいあ。ドの邊く小糸のうらと
 後方遙よ同送りらる。當下憲政の由女がうらを必しも老屋あたら
 せあ。と近習よ耳語あひがけの獲の物足りぬ。さう直よ帰らん
 とく。名越村よさる。さる。さ情ああら山の内日暮て籠入りあひぬ。
 さる程よ憲政の小糸がうらをさひ忘さる。その夜つくとさひあふやう。
 彼佳人を明と比よ。迎とらさる。景春をさる。さる。老屋ホが故事
 を引先規を繰とて置。諫ん必定あり。さる。彼あたらせさる。
 して市場巨福路各ある別荘。竊よ迎とらさる。世のまよも穩便よさる。
 款護たよのよ。公腹股脰の多たれども。意中の機密を告あらせさる。
 さる。命あんの。又まよ。ゆりともさる。さる。何人をさる。遣へつた。
 とさあ。さる。さる。その夜をさる。さる。神原矢呀平が。子執五郎の。目さる。

糸本不虫言糸老口

一

父の忌果る。早速より仕入。王君の見事より入りし。憲政を喬く。神原秋五郎近くす。われ矢野平東六ホが狂死の。汝が哀傷只ひや。本意あり。就中先君終焉の折までも。心ろををせられた。一文の陣羽織籬の水屑とあらん。惜もあはのまりあり。浦曲は流し。ある漁。いよ縁由を令あらし。彼羽織風のす。浦曲は流し。の。被のびと持来せよ。罪のり。その罪を赦し。賞錢をよ。ふるべ。と幾回下知し。れ。今よ。羽織を獲つ。と。の。汝も生手よ忘る。と。七里の濱辺。綿村が崎澳の水鳥。よ。暴風は波の。目。浦曲を巡り。と。索。と。仰。され。秋五郎の額。つ。頭を。親子が入水。格別。早。及。伏。たり。ける。親。を。矢野平が。鹿。の。罪。を。東六郎。亦。諸。共。祠堂の料。と。賜。う。君。因。心。生。世。の。忘。れ。た。彼羽織海龍王。よ。暴。波。は。破。れ。失。た。男。秋。磯。の。海。人。身。を。と。り。索。出。し。た。く。ま。ら。ん。と。夜。は。目。は。ひ。ひ。と。言。受。た。り。憲。政。の。快。然。と。ら。丘。頭。弱。年。あ。れ。ど。も。得。い。父。子。と。れ。今。意。中。の。機。密。あり。の。り。を。と。り。と。死。た。の。人。を。し。ま。さ。ら。ぬ。と。い。ふ。と。男。は。は。は。と。う。よ。使。の。誠。心。を。と。り。と。今。命。を。一。條。を。人。よ。と。ら。せ。ど。う。と。い。ふ。と。ひ。を。り。た。間。れ。小。藤。を。と。り。君。の。お。も。ひ。百。年。の。命。も。絶。く。惜。く。ら。ど。老。た。も。壯。あ。も。左。右。の。人。の。ま。り。る。小。二。十。よ。と。ら。ぬ。某。の。密。事。の。使。を。命。せ。ら。れ。る。面。目。され。と。り。の。り。十。重。二。重。の。屏。を。踰。数。万。騎。よ。と。熟。了。た。敵。城。た。り。も。備。ひ。入。り。お。小。藤。あ。る。働。た。く。買。慮。を。せ。ら。ら。ん。と。い。ふ。と。男。は。は。は。と。う。意。政。竟。命。を。打。笑。て。言。下。の。領。守。速。ま。る。を。疑。ふ。の。ち。ら。ぬ。も。輕。謀。の。信。や。好。も。之。を。も。と。り。と。り。の。か。を。兼。引。や。と。再。び。問。れ。と。此。も。擬。議。せ。ん。と。物。体。あ。れ。ん。疑。ひ。言。を。

大川

食ハ武士たるもの。恥る所よしむ。さて主君の仰は背く。天高地比の厚子。牙を咬む。野あ。新まらぬ。仰りあら。天神比紙の冥罰を。立地は天雷は響るべし。と言を放し。誓ひ。憲政怡悦。斜ら。左右の。退けて。狭五郎を近く招れ。意中の機密。敵城へ。反回苦肉の計を行。行せん。おの。名越の切通。獵を。辻町の盡。備甲ある美女を。彼背棋。嬪婦が女児。小糸と。ありた村酒の人を酔。野花。一。び。その番。海。捨ら。忘。目。彼小糸を。示。名氏を。獵箭一條。あ。明。老。争。諫。必。破。あ。白。小。共。福。別。莊。冊。人。真。

本伊

大川

耳語の。狭五郎ハ果。主の面を。膽。扇谷の。管領家。朝兵。朝臣の。姫君と。御。縁。結。へ。輿。入。る。下。賤。鄙。陋。の。老。女。が。女。児。を。ほ。ろ。近。る。物。体。あ。縦。の。事。匿。と。す。悪。吏。十。里。を。走。る。と。速。の。世。の。議。は。思。食。う。え。ら。家。長。久。の。り。ん。計。策。願。く。ゆ。の。り。せ。も。の。ど。憲。政。の。面。色。忽。地。焼。が。ご。と。く。おん。佩。刀。を。取。て。右。辺。の。瑞。を。下。と。突。立。か。を。れ。狭。五。郎。汝。ハ。今。何。と。の。ひ。つ。る。言。を。食。ハ。武。士。の。恥。辱。つ。ゆ。ら。り。も。予。が。意。は。背。く。神。罰。立。地。は。蒙。り。て。天。雷。は。響。れ。ん。と。正。しく。誓。ひ。を。あ。せ。よ。の。ら。ご。る。その。席。を。あ。え。ら。て。賢。たら。る。小。冠。者。が。諫。言。を。な。す。の。こ。と。は。主。と。あり。の。て。悔。る。お。の。り。の。悔。ら。ん。悔。ら。ん。の。あ。い。を。推。辞。る。の。を。仰。を。推。辞。べ。れ。ど。微。か。案。諫。も。忠。義。の。二。字。領。堂。も。忠。義。の。二。字。清。と。濁。る。君。



隨意良辰といふことも。何人といふことも。世言の一言の破られし。さうり直よ
 辻町赴いて人ぢれむ。小糸とやらんを。巨福路茶の移し入れ。及命をよけあげんと
 といふ憲政怒氣を解ち。あつらひの緯うらうらほ。なみ長命談し。そ人ぢらん。老に
 どもに疑はんと。し。ゆたね。と。ご。あ。の。映五郎の門と。意て。さ。ま。な。使。も。主。命
 は。脱。ま。わ。る。由。は。病。鷹。あ。ら。ど。立。も。の。身。た。は。は。あ。を。さ。う。の。ひ。と。ろ。よ。と。ひ。あ。ひ。さ。る。
 極て。あ。ん。前。を。退。出。は。つ。つ。と。と。ひ。め。が。ら。と。よ。主。君。密。の。命。さ。う。と。も。あ。ら。た。ま。は。り。
 を。へ。も。昔。の。後。月。の。緯。の。破。れ。と。あ。ら。は。い。う。ま。ん。く。不。忠。あ。ら。べ。諸。侯。の。年
 辰。五。人。わ。れ。の。酒。を。失。つ。ど。の。本。丈。わ。り。密。事。を。使。ぢ。科。よ。よ。と。身。の。醜。あ。ら。は
 る。れ。人。を。う。え。て。諫。ま。う。ま。い。と。さ。う。さ。う。さ。う。君。の。さ。ひ。ら。さ。う。あ。を。と。あ。ら。ん。長。身
 判。官。景。春。の。い。當。家。棟。梁。の。辰。と。さ。の。春。の。謙。倉。の。あ。り。さ。の。人。の。相。謀。の
 安全。の。謀。あ。ら。は。と。思。思。ら。遠。く。景。春。が。宿。知。い。わ。れ。了。閑。談。し。

源氏物語 卷之五

事の越からゆあり。偶々も告ぐ。景春は眉根をこも。竟然の異あり。
 只その色は濁ると色を好むとのも。君はくまをば。誠なるの面を
 犯して諫ん。元来未吾侪が職分あれども。私殿の君の怒りあり。立地は罪にら
 せん。是れ又惜む小堪たり。その忠信の親もや。た。そのめを殺し。あ。亦是
 り。君の損。これ一計あり。一旦主君の怒を醸して朋輩を識らるるも。君を
 全くとけ。君と雪の誠忠人の上。ま。私殿のあ。のり。と。同い。独五郎うら。
 笑。宜。中。も。ゆ。で。誠を着。恥をと。も。緯。主君のお。後。日。の。栄。を
 恥。又。是。ら。ど。亡。父。が。今。般。よ。ひ。送。り。も。の。の。の。ゆ。と。を。す。景。春。と。
 後。方。を。え。う。額。を。合。然。ら。ぶ。計。必。も。行。ひ。易。願。は。彼。辻。西。の。老。
 婆。背。棋。ら。る。る。貪。欲。う。行。様。を。ち。ら。ど。一。個。の。女。児。を。香。餌。う。
 禍。媒。の。富。を。奪。ひ。鳴。呼。る。り。の。あ。ぞ。あ。ら。ん。ど。ら。ん。今。五。十。金。を。附。属。し。て。
 計。を。行。せ。ん。私。殿。彼。処。に。赴。て。背。棋。よ。り。ん。と。君。ま。の。み。あ。ら。り。あ。り。あ。が。女。児。を
 賣。し。て。迎。え。ら。せ。ん。と。宣。ひ。一。が。の。ゆ。と。ん。弱。谷。を。れ。と。新。替。と。の。ひ。興。入。は。も
 近。た。あ。り。も。も。老。臣。犯。諫。め。事。竟。は。就。ぐ。若。曹。怒。よ。の。如。く。は。住。ん。
 へ。吾。君。の。怒。ひ。賞。と。新。人。の。妬。み。あ。り。殃。危。よ。あ。ら。ん。秋。ら。れ。も。又。則。が。し。
 彼。を。と。ひ。い。れ。を。あ。の。は。木。親。子。を。去。と。且。く。他。郷。へ。移。さ。う。と。の。
 領。諾。せ。ら。る。と。た。の。幸。を。甚。し。路。次。の。費。を。助。ん。の。金。五。十。兩。を。賜。ふ
 り。の。と。説。諭。し。主。君。の。諱。を。写。さ。れた。る。獵。器。と。金。を。引。え。り。と。や。
 這。奴。市。を。ま。離。の。大。う。の。毒。智。の。匹。婦。財。を。愛。す。兼。引。ん。秋。あ。不。是。と
 を。ち。ら。ぶ。ら。あ。く。も。輒。々。諾。せ。ば。い。金。の。買。数。を。す。一。百。或。は。百。五。十。兩。
 金。その。ま。に。任。す。る。も。蓄。害。を。種。ふ。と。ら。と。彼。速。く。他。へ。去。る。の。性。を
 を。ち。ら。ぶ。と。さ。う。い。ふ。が。君。の。思。は。れ。と。も。せん。と。あ。く。を。坐。せ。た。主。従。妻。全。の

赤木 忠告 言形 巻二

計られよかぐりの絶てり。あつとも。彼老婆金をとも承引せ。君野推系
さるこのつらむく。難儀はるべし。さゆらん。是非は及びぬ。和殿只一カ
老婆と少女を欲殺し。影を隠し。跡を埋す。事のあらざるを候。いかん君
悔ふ。あつとも。それその忠義を覚えぬ。さるはよ。ゆふを護るなり。
是則一旦主君の怒を醸し。朋輩も疑らる。とも。厭と云。と伺ひ。いふ
あり。それゆゑ及びぬ。大に。絆を異し。たるのん。致し。取年。あはし。よ。この
大功を立。たるの。物死す。親のけ名も。あつとも。聖め。あん。忠孝。只。この。一。事。
小の。勉め。と。説示。金五十両を。さへ。出つ。や。鶴。よ。これ。を。通。よ。ま。せ。杖。五。郎
あつ。其。む。と。件。の。金。を。受。納。め。賢。慮。の。越。悉。公。魂。を。徹。した。り。今。更。よ
何。を。り。議。を。さ。げ。絆。り。を。異。し。たる。の。ひ。再。へ。も。又。測。り。し。さ。り。や。谷。嶺。の
杖。渡。る。日。蔭。よ。身。を。処。と。も。主。君。の。長。久。を。と。も。莫。く。更。は。化。変。る。の。ひ。と。こ
煮。つ。とも。別。を。き。き。さ。る。の。ひ。さ。り。さ。り。さ。り。さ。り。さ。り。後。敵。を。景。春。つ。つ。と。目。送。て
頗。り。と。嘆。息。し。たる。ひ。さ。り。さ。り。さ。り。さ。り。さ。り。杖。五。郎。の。忙。し。宿。所。よ。り。く。竊。り。旅行。の
用意。し。たる。後。さ。る。も。人。も。い。は。れ。被。と。さ。り。の。ひ。さ。り。さ。り。さ。り。さ。り。取。ぎ。て。路。銀。と
とも。子。懐。に。楚。と。扱。り。亡。親。の。像。見。あり。と。衣。裳。雑。具。を。よ。く。私。卒。奴。隸。よ
願。と。ら。し。つ。忌。め。け。た。れ。が。鶴。岡。へ。参。詣。と。し。い。ら。し。後。者。を。承。引。せ。ば。た。
ひ。と。り。さ。り。さ。り。さ。り。さ。り。宿。所。を。せ。彌。生。山。霞。の。烟。に。お。も。鳥。の。万。よ。ひ。と。も
絆。を。異。し。と。り。さ。り。さ。り。さ。り。さ。り。名。残。い。と。惜。る。庭。の。桜。は。門。の。杏。葉。枯
得失。定。る。た。か。の。往。方。を。辻。点。の。辻。町。投。り。走。り。ま。

第六段

杖五郎怒て背楯に殺せ
小系女袋で薄命を告

薪樵る藤倉山の東ある辻町に住ひぬ。背楯といふ婆女。殘忍毒害の

癖者あり。その素生をいつと回原の奴流る。そのぬりの妻
 かりしが夫牙すうて後、牙を口が随子ゆと頼し。淫毒をのころとせしむ。
 まるく困窮至極して。貧乏のころより。其く。齡五十をりの比。怪
 ありける。悪棍黒平との。其と謀りあり。東海道を編歴し。妍童
 女を勾引し。東ある。西の。京浪速津へ賣や。南の。物せしむ。
 北國へ賣は。年未と移る。移る。十二年。比冬も。十二月の中。渡りけん。
 彼黒平の。其。天龍川を。五。六。才。童を携て。誠修一
 赴く。女房を。子と奪ひ。母を賣んと。事十二分。救計。途。猛お
 相譚。支黨の。後。姨。一。捕捕。其。と。て。
 その母を。女。童を。賣。辛。黒平。相。其。
 大。彼の。童。賣。事。年。僅。身。價。の。残
 ちも。実。の。柄。花。眉。目。の。人。は。ま。た。は。る。ま。は。珠。玉。と
 玉。瑕。今。此。天。の。賣。中。と。思。い。し。は。二。三。匹。ひ。て。薄。念。る。
 辻町へ。移。彼女の。童。小。糸。と。名。け。て。苛。刺。遣。使。ひ。む。ご。もの。宿
 る。口。後。生活。時。と。て。僥。倖。な。れ。よ。後。百。件。の。黒。平。へ。嫉。ま。は
 たる。悪。棍。の。物。小。脾。虫。か。つ。て。背。掛。の。動。と。れ。ば。怪。小。債。を。負。せ
 ら。れて。残。失。と。幾。回。と。い。ふ。を。去。後。困。果。て。追。遠。離。十。年。必。千。本。往
 方を。か。て。月。日。の。も。く。小。糸。が。容。止。の。艶。妖。で。む。し。各。う。れ
 白。拍。子。華。洛。の。静。手。紙。の。千。壽。喜。瀬。川。の。龜。葉。と。い。ふ。も。か。か。ぬ。女
 ら。ば。背。棋。漫。小。は。火。賣。宿。控。女。と。な。れ。と。死。ハ。牙。價。不。せ。り。あ。り
 お。け。く。ハ。富。翁。威。徳。上。の。側。室。と。な。る。の。ら。く。ま。で。ワ。が。為。不
 搖。錢。樹。と。る。ん。執。ぬ。種子。の。み。の。と。と。肚。裏。を。遠。く。を。う。つ。年。十。一

新編 源氏物語 卷之六

年十一

あつきの刀自の宿野ありや。管領よりおん使ととわのりんと。母門まで。
背棋あんを愛も果む。慌忙たきり出。あつ背棋とる吾儕ふけり暮。
ゆる目ふおのそぶして。きのみりよの暖かむ。裏衣の汗小濡け人。小糸...

りつゝものもいふぬといひ。謀りて我妻改まる。その下は女のうらみのあはれど
 藤倉の二もたれ。箱神婆もが女見お懸想して。後の禮如とらう。原の誓の
 獵箭の直さふ死む。嫁入ゆはを辞中て。化知へ去とらいつる。義理致五
 十や百のめらう。金せむらうの物受人とあらふ。けりや。小糸を賣らう。で
 ちる。男のいひまど。どぞのやう。是れ。後。の酒價。小欲。くわん。牙。うら。うら。と
 いひつ。扇を反う。せ。田金。乱ま。枝五郎。が。胸の。あ。う。う。教。かり。彼。明。明。が
 東籬の。秋。落。英。噉。る。不。異。あ。ら。は。は。の。漫。ろ。う。痛。痛。し。幼。る。ね。と。ま。あ。ひ。そ。と
 あ。は。じ。が。袖。を。ひ。く。小。糸。死。ん。だ。ら。う。眼。を。腫。し。何。と。和。前。が。あ。る。と。あ。ら。ん。
 仏。ころ。も。物。あ。れ。喧。嘩。の。側。杖。打。ま。ん。う。り。日。の。暮。ろ。小。燭。を。良。さ。げ。や。燈
 蓋。を。揺。し。し。油。覆。て。損。さ。る。と。噉。着。ど。く。罵。ら。れ。お。燈。出。て。燈。箱。う。ら。は
 火。教。は。枝。五。郎。の。膝。の。厚。さ。う。お。教。乱。山。金。を。拾。う。懐。紙。へ。推。暴。と。く。病。小
 我。い。あ。の。の。刀。自。が。憤。り。い。つ。つ。所。至。極。せ。り。五。十。金。を。物。と。ま。ら。は。或。の
 百。金。二。百。金。所。望。の。多。寡。を。辞。ふ。あ。ら。は。姑。く。こ。ま。あ。ら。う。納。ま。て。い。ひ。つ。

一とを。若。て。た。べ。と。勸。解。せ。ら。う。で。背。棋。の。壁。を。掛。る。憲。政。の。捕。箭。を。取。て
 狭。み。帝。が。眼。さ。た。へ。衝。せ。り。大。郎。子。こ。ま。あ。ら。う。く。ん。あ。ら。う。世。は。貳。あ。る。武。士。と。ら
 二。張。の。弓。を。奪。う。と。の。否。應。え。ら。ぬ。大。お。の。誓。言。の。獵。箭。が。二。條。あ。ら。は。藤。倉
 小。糸。常。圍。ら。ん。市。教。書。小。糸。賜。を。返。し。て。化。知。と。去。と。い。は。れ。て。六。釋。迦
 あ。も。あ。れ。達。磨。も。あ。れ。腹。の。う。ら。う。や。牙。丈。あ。あ。ら。う。や。で。田。金。の。山。紙。築
 る。と。も。そ。れ。小。糸。を。折。る。婆。も。あ。ら。は。女。子。の。元。来。氏。あ。ら。う。と。も。王。の。平。元。女。房
 達。左。右。り。不。冊。し。小。糸。が。栄。耀。の。上。成。盛。の。献。立。の。この。婆。も。う。ら。管。領。乃。姑
 市。前。と。駁。の。武。士。不。教。且。錦。の。会。表。袴。の。横。風。掃。後。を。う。も。原。の。鞋。々
 この。葉。一。條。小。糸。が。腹。の。加。減。う。ら。う。孫。も。産。バ。世。継。の。郎。君。扇。谷。乃。新。婦

御前でも墓谷の三平二満でも去く殿の正妻おせまも近の親子満共
 君所へ市興と推居て負乏施由する工場の富妻那が辨を立板へ
 水おせぬといひたすの悪口雑言柳むらけそら月うえといつて所
 食有理それゆゑふこそ武士さるものかめくおせまおせまおせま
 おひ孫と沈るそくひの背向まう又後方より引く袖をうた拂ひて冷笑ひ
 年老て何何のまても耳の疎くては寝るは数も足らぬ額髪乳乃
 貞の美人の人を教ひふ物教ひの夜もゆるん女児のうらとも君所へまうそ
 殿中あつて面ういふべたと然りりての塔む小まのるぞや人の貞の之膳く
 ぬての事果むと裳をさく引揚てぞくせざるといひたすれあうく席を
 立んととれば杖入席の遠く刀の瑞ふ裳を突出ゆくまふ理う口
 いひ實めくも横紙を破るとる六杖入席が刀おけして立せの世じを定め
 回答せせよといひば如狐とんぬりてさう秘伝人の急状をおん刃の足
 貸のせと晴著布子の裙綿接ん妨とると遊之せバオもさる又引
 袂を非と拂ひもあむ痛着をあげて神原が背胸前嫌ひるくつげさ
 礮と打たれて尻尾を左に不受右にふ引抜く刃の老う大刀風刃て背
 肩尖四五寸砍著れば苦と叫びて仰さぬ不倒えんとして満とさう見
 刃とおもせむと子拘おせんとうん溜り組を沈で揮むと小髻の際を丁と
 破る破れて半面半熟の松梅は似る鮮血のこまるお深残るれも此
 弱く嗜て挑争ふむと小まの吐嗟と立騒ぎ人を叫んぬ鄰家の遠せん
 らさる腰帯をたて執柄てあり揚る刃お閃りと投うけて引さむれも中
 帯の中よりこと断まそその刃の撞と輾轉をんぬりもせだ杖入席の
 蒐て背棋をむらむとんと破倒せバ二更の鐘を音とる常迅速頭生

糸井 春 虫 古 糸 井 春 虫

著意種花
毛不活
無心挿板
柳成蔭

櫻五郎

うらたま

阿らま
ち子
その
夜
乃



うけ張
うけ
白川山の
者の
月
著此堂



小 5 7

糸井 春 虫 古 糸 井 春 虫

苦哉南を阿彌陀佛と唱つる毒蠱くを蹴りて。刀尖咽喉へ刺徹し抜く
 血刀より海へ倒れ下す。伏沈む。小糸が領上引起し。これ汝ホと怒る
 る。いさど道理を述言せ。現場。統論を成。徳をば。己と成。汝を鬼く。く
 人を殺すも主君の為。どく。世の仇。りけん。世の常言も細小なる虫を
 殺して巨大なる虫を助くといふ事あり。汝ホ親子か命を預せ。両管領の
 さ。郎黨家臣数千人。賤夫山見のま。多。凡。牙。庇。を。蒙。我。の。の。
 安く平けく。餘福を受けて。異。又。終。らん。揚。貴。妃。死。て。唐。祚。復。麗。之。姫
 獲。れて。晋。國。乱。る。これ。范。蠡。か。才。あり。て。五。湖。の。孤。舟。を。沈。め。國。家。の
 為。小。虫。毒。を。除。け。ど。つ。やく。各。級。有。り。の。小。あ。ら。ど。り。存。命。る。が。容。を。更
 牙。の。墨。漆。の。苔。衣。佛。の。道。を。ひ。入。り。て。叮。嚀。ふ。菩。提。を。吊。人。母。を。怒。り。て
 又。仇。の。及。小。果。る。も。過。世。の。業。因。け。小。心。の。命。運。と。い。ひ。後。て。成。仏。せ。南。無
 阿彌陀佛と。言。え。刀。の。下。も。吐。唾。と。叫。び。て。ま。り。退。が。不。足。癱。て。せん。ど。も
 ろ。息。を。吻。れ。忠。も。亦。も。あ。る。益。良。雄。の。刃。を。楯。と。す。牙。の。命。を。浅。す。り
 逃。が。れ。と。せ。福。と。今。殺。お。一。言。の。り。たり。と。の。せ。も。あ。ら。と。声。を。あ。り。文。の
 期。ふ。及。び。て。何。ん。空。ん。言。を。設。隙。を。窺。ひ。逃。と。も。り。て。腹。と。ふ。子。又。を。受。よ
 と。威。勢。猛。く。又。う。揚。る。刀。の。下。を。彼。首。是。首。へ。ん。階。り。行。燈。檣。柱。と。端。賊
 せ。六。箇。の。あ。き。後。五。郎。の。踏。込。を。撃。刀。尖。高。く。閃。々。仰。窓。の。麻。索。遺。矢
 と。断。拂。へ。ハ。尾。藤。末。と。し。る。板。戸。の。隙。より。光。月。あ。り。の。月。の。影。張。り。く
 さ。か。牙。の。反。り。腹。ま。る。る。の。電。光。石。火。の。と。も。熱。く。衝。の。れ。を。者。を
 沈。めて。受。流。と。楯。立。立。琴。絃。へ。と。えて。柳。の。小。糸。あり。乱。れ。肩。あ。り。の。め。を
 み。ら。の。黒。髪。あ。る。并。櫛。の。齒。を。挽。り。う。子。繫。を。大。刀。同。争。ひ。の。争。ひ
 や。やく。不。琴。り。て。刃。を。う。け。と。あ。猛。武。士。と。い。つ。る。も。定。解。し。く。け。

ののの。いふべのと紙なるもいふせと。一個の女子を物づく。教のあつたこと。
 春の夜のふ短くとも。要時放く最期の一句。啖て食と。齒のあつた
 後小舊里へ言きてもつふ。この世彼世の逢ひの雲霧るえりの紙情なり。
 じふんふこそと。悲と。狭五郎啖てうら。食又せひけども。公儀のあつた
 るは後小舊里へ言きてもつふ。この世彼世の逢ひの雲霧るえりの紙情なり。
 かな。あつた。や。さ。い。の。と。の。を。せ。て。救。回。目。を。掛。ひ。つ。か。か。親。の。代。郷。の。あ。り。
 實背棋が子あつた。年六のとき。友あつて。離別の母は。推つられ。地方を何と
 辨と。稱と。寒。け。れ。比。小。旅。森。と。途。を。り。あ。ぬ。じ。舟。悪。棍。ホ。も。と。れ。
 母と。と。つ。と。離。れ。る。り。あ。つ。た。此。へ。傳。は。れ。仇。の。女。兒。と。鳴。ま。る。去。年。小
 今年と物さる。まれば。知る。あ。恨。く。か。を。し。く。又。哀。れ。の。母。の。住。方。と
 父の。い。ひ。う。の。物。の。あ。り。の。い。の。長。た。別。小。舊。里。へ。傳。は。れ。と。い。ふ。と。忘。れ。れ。ど。
 聖の名を。稱。ば。天津。雁。翅。借。り。て。も。身。の。憂。を。言。傳。や。ら。ん。う。も。つ。ま。の。び
 多の。び。小。嫖。客。の。あ。り。酒。宴。の。酌。を。執。せ。ん。と。て。刀。自。ら。毎。日。打。懲。を。呵。責。を
 忍。び。て。身。を。任。せ。て。人。の。側。室。と。あ。る。と。せ。所。身。の。栄。ま。ら。ふ。べ。た。と。も。武。士。の
 子。は。つ。り。と。い。ひ。う。け。て。又。泣。沈。め。狭。五。郎。啖。て。う。ら。驚。れ。原。来。と。あ。つ。た。背。棋
 と。親。子。の。あ。つ。た。り。け。つ。六。才。の。と。は。は。引。さ。れ。年。來。仇。は。後。ひ。く。舊。里。乃
 名。を。せ。る。と。も。父。の。名。字。を。ま。ら。ぶ。や。と。向。は。や。う。く。頭。を。擡。年。來。身。副
 懐。を。放。さ。ぬ。獲。袋。小。籠。る。印。籠。の。母。の。像。見。曙。明。と。写。し。て。傳。り。り。
 胸。帯。小。笠。世。数。字。字。天文。二。年。九。月。十。七。日。双。生。と。五。十。四。塚。東。六。郎。が。二。女。
 止。み。子。と。あ。つ。た。り。け。つ。六。才。の。と。は。は。引。さ。れ。年。來。仇。は。後。ひ。く。舊。里。乃
 父。と。暮。る。小。子。が。神。る。ぬ。身。の。掛。獲。囊。解。て。口。を。も。由。痛。く。狭。五。郎。ハ。あ。つ
 どの。小。膝。を。拍。て。驚。嘆。原。来。その。名。を。隨。て。啖。く。五。十。四。塚。ぬ。の。次。女。小。草。が

糸井村史 糸井村史

けんその日ハワある悪日るんが親子のろ共うらこの泡と消る方沖津波
別ま一年ハ遠江灘と吹くよ恨れ風のゆるゆるく小偈るた磯の小夜
衝つて母鳥ふあふもかき青じびれ身ひらと何年して存命ぶたを
と名教と授五郎ぬ。忠臣といふまありてこの坊へ向のひとりだもまあ
るうのと背向はかりてるよすある子指組て胸まおれ目と両頬を伸せども
狭五郎ハ立申あがらぬ又の鮮血を拭きり鞋を履て丁と納め名を告縁一
教宗て死をいそぐハ健氣るれども背棋を教せしふこに死ぶるのこ入る
おん身を害せんや。あつて死んぬるといひつ懐極撈て紙に写せし四箇の
戒名一對ハ父母の君二幸ハ則おん身が父といひて三号の妻小草又母ハ則
身の本その本乱して備がた。おん身の末はとまらぬ親の遺言ハ今も
おも。耳底ふらふら。あつてそれゆゑのかけ絶るんて息の下ふ其を倍と

宵しく。あつて狭五郎。小草ふ妹あつとづく。縁場どてのらうふ名告のふり
あつて。彼窠く。獨居る。小草とあつて妻ふせよ。かゆも東六と世女が
枉死のあつて。一旦誓ひ。武士の戒を果えんとあつて。親がこふ背くる。
といひ送され。今宵のころ。未然と察し。あつて。言傷り。あつて。誓ひ。則父母を
とて。これ又おん身が色を愛て。助んといふあつて。言傷り。あつて。誓ひ。則父母を
君も。暗闇のれ。五十四歳。小草も宵せとて。あつて。日蔭の花。身のある果を
天は任して。おん身と共よ。教を埋め。遠くきりて。時を俟めん。君ハ怒れ。朋輩ハ
乱旁の人と憎む。とも。扇谷といひ。君と故め。婚姻整ひて。両家。和順イ
榮あつて。身のおれ。衣ハ厭ふ。足ふと。誘ふ。あつて。小糸ハや。やく涙を
禁め。憑り。死言の。誓ふ。あつて。捨る。命と共よ。教獲る。あつて。刀自か
枉死する。実母の。為。この。身。あつて。然ハ。あつて。十年。あつて。親と。あつて。化生。乃。縁

恩を今更仇中て亡骸をとりの飲めど。あるうわらに墓所。一采乃死由
 今向てふ今宵まよふ人ありぬ罪障とるせん。許さしの人と正首は死骸
 對ひ堂を合し。うら念とれは。狭五郎も。猪共よろら念下。懐胎は累と
 ころ。金五十兩を分ち。北首を臥しける。背棋か頭髻を執りて。此彼楚と
 結び。苗め備の硯引。して遠く黒搦る。じ。筆をふる。身を起し。
 出居の障子。入教の遺書。我志と所ありて。刀自背棋を割し。畢。あは
 然ある。あは。己と死ねざる。因て遺し。あ。五十金。鄰人。郷黨。あれを
 取て。苦提を吊ひ。ゆるさ。天文十八年三月廿一日の夜。嘆息して。筆を。閻神原
 狭五郎と書写す。主君の禱を。写され。獵箭を。跡への。さ。と。答。本。うり
 断取て。行。祇。不。務。め。血。塗。ま。す。る。袴。と。共。上。衣。を。獲。て。脱。捨。れ。ど。禱。と
 用意の行。装。人。目。と。つ。ひ。編。ま。は。る。の。使。の。臘。月。曇。る。手。胸。の。十。寸。は。鏡



新編源氏物語

ナナ

こいとひん 小糸の鬘なの乱な髪な左な右なは極遣くまりて今いまぞ死骸しがい又また別且わかの柳やなぎさして往ゆく方への
ま定まりあり給たまと武ぶ後ごの州しゅう假名川なまがわの神原かみはらが乳母めのとの里さとに彼乳母かのめのとの身みを
うせ十年とせあまうを經へよけはいとむかひうるくあり(どの)もその夫おとこその子こ共ともに
うへある月つき彼知かま在ありやせんとあまわうをいあてふをら小糸こいとを技わざ極き死した
うづ出いまは春はるの夜よの夢ゆめ幻まぼろしこの世このよも夏なつあは迷まよひ六道むだうの辻つじ町まちを後のちふかり
また生まようらうとぞいそがしぬ
 本伊 大川豊

絲櫻春蝶奇縁卷之四終

東都書肆寶聚堂

西國米澤町三丁目
 金屋 又 兵衛

繪本排間録

前後十二卷

嫩髻蛇物語 松亭金水作

前後十卷

曾呂利狂歌噺

前後六卷

志道軒蝴蝶物語 風來山人作

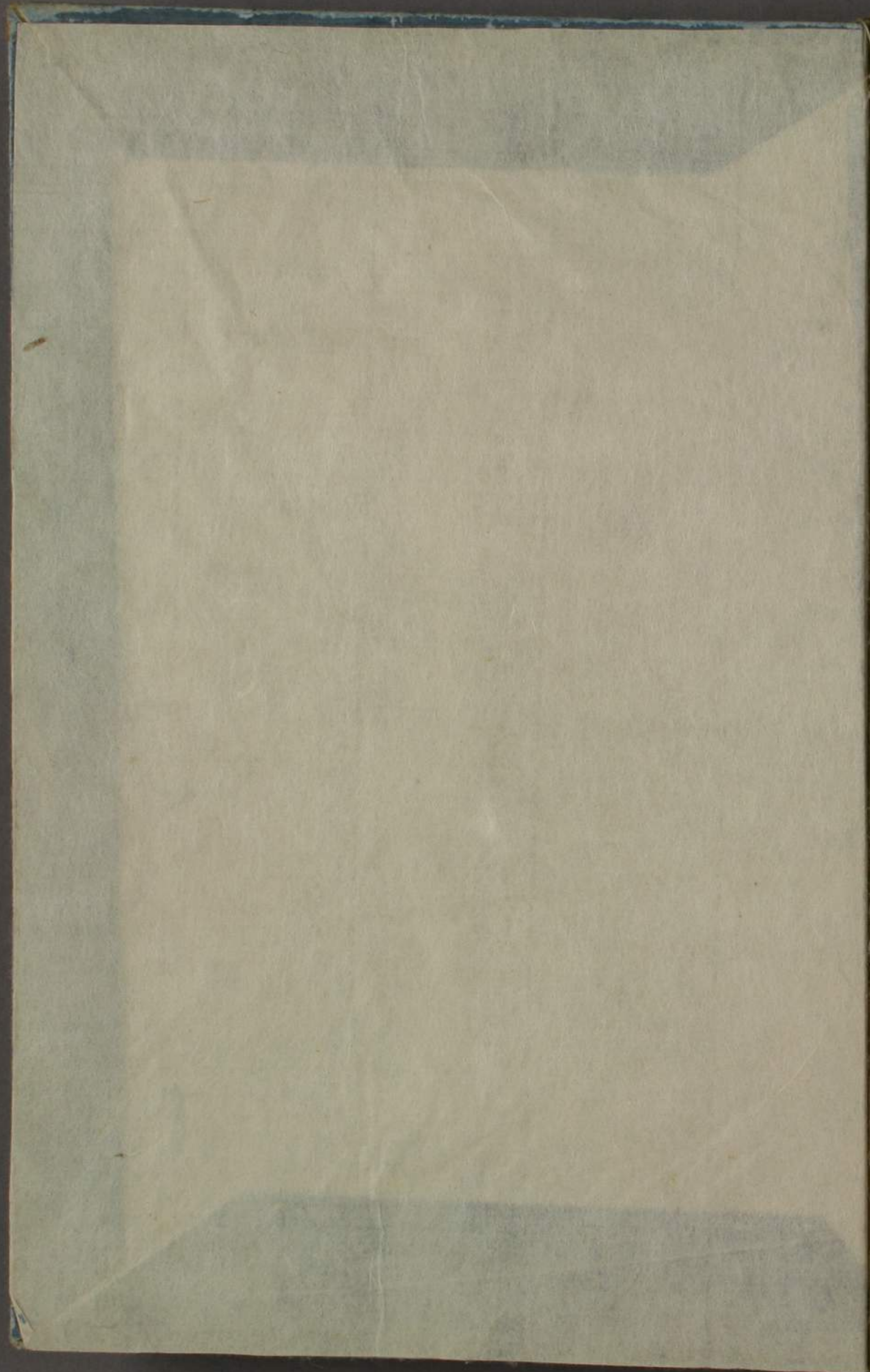
全三卷

擁書漫筆 與清作

全四卷

嫩髻蛇物語 迺同奏出ゆい

三五卷編



Handwritten text in a cursive script, possibly a signature or a note, is visible on the right page. The text is partially obscured by a large, dark, irregular stain or tear in the paper. The visible characters include "to", "2", "t", "in", and "of".

